資治通鑑　第 173 巻

陳紀七　起強圉作噩，盡屠維大淵獻，凡三年。

■陳、●北周、北齊北齊、続国訳漢文大成 経子史部 第 10 巻 122p

（テキスト中華書店、参照・国民文庫刊行会昭 3 年～7 年国立国会図書館所蔵の pdf のページ）

高宗宣皇帝中之下太建九年（丁酉，５７７年）

【鄴都の陥落、齊滅亡】

北齊**春，正月**，乙亥（11-11+1=１日）朔，齊の**太子**の**恆**は**皇帝**に即位，生まれて八年矣。改元して承光とし，大赦す。**齊主**を尊びて**太上皇帝**と為し，**皇太后**を**太皇太后**と為し，**皇后**を**太上皇后**と為し。廣寧王の**孝珩**を以て太宰と為す。

北齊［高孝珩を滄州刺史に外出、弱体化］司徒の**莫多婁敬顯**、領軍大將軍の**尉相願**は兵を千秋門（鄴宮西門）に伏して，**高阿那肱**を斬り，廣寧王の**孝珩**を立てんと謀る。會々**阿那肱**は它路より入朝し，果たさず。**孝珩**は周の師を拒むを求め，**阿那肱**等に謂って曰く、

「朝廷が遣わして賊を撃つを賜わざれば，豈に**孝珩**の反くを畏れるにあらざる邪？**孝珩**が若し**宇文邕**（周主）を破り，遂に長安に至りて，反すとも亦た何ぞ國家の事に預からん！今日之急を以て，猶ほ此くの如く猜忌する邪！」

高、韓は其の變を為すを恐れ，**(10-123p) 孝珩**を出して滄州（北魏は 527 年熙平二年に瀛州と冀州の一部を分割して滄州を立てる。浮陽郡の饒安・浮陽・高城・章武 4 県と楽陵郡の楽陵・陽信・厭次・湿沃 4 県と安徳郡の般・重合・重平・平昌 4 県を管轄）刺史と為す。**相願**は佩刀を抜いて柱を斫り，歎じて曰く、

「大事は去る矣，知んぬ、復た何をか言わん！」

北齊［上皇など皇族は碻磝に逃亡］**齊主**は長樂王の**尉世辯**をして，千餘騎を帥いて周の師を覘わ使め，滏口に出，高阜に登りて西を望み，遙に群烏の飛起するを見，是れ西軍の旗幟（周の旗幟は黒く、鳥を見誤った）と謂い，即ち馳せて還る。紫陌橋（鄴の外に在り）に至る比おい，敢えて回顧せず。**世辯**は，**粲**（高歡などと北鎮に起こる）之子也。是に於いて黄門侍郎（齊の制では、門下省に侍中・給事黄門侍郎各々六人有り、中書省に侍郎餘任有り）の**顔之推**、中書侍郎の**薛道衡**、侍中の**陳德信**等は**上皇**に勸む、

「河外（黄河の外。王者は京師を内とし、諸夏を外とす。齊は鄴に都し、河北に在り。河南を河外とす）に往きて兵を募り，更に經略を為すべし。濟らざれば，南に陳國に投じん。」

之に從う。**道衡**は，**孝通**（始め賀抜岳に従いて、後に齊に入朝に因り、留まりて鄴に事える）之子也。丁丑（13-11+1=３日），**太皇太后、太上皇后**は鄴より先ず濟州（碻磝に治す、山東省東臨道茌平県、現・聊城市茌平区高垣牆村）に趣く。癸未（19-11+1=９日），**幼主**も亦た鄴より東行す。己丑（25-11+1=１５日），周の師は紫陌橋に至る。

■辛卯（27-11+1=１７日），**上**は北郊に祭りす。

●北齊［鄴都占領］壬辰（28-11+1=１８日），周の師は鄴の城下に至る。癸巳（29-11+1=１９日），之を圍み，城の西門を燒く。齊人は出でて戰い，周の師は奮撃し，大いに之を破る。齊の**上皇**は百騎を從えて東に走り，武衛大將軍（魏の制に倣い、武衛将軍は左右衛将軍に副貳し、左右廂の主る所の朱華閤以外を掌る。階は従三品。大将軍は等を進む）の**慕容三藏**をして鄴宮を守ら使む。周の師は鄴に入り，齊の王、公以下は皆な降る。**三藏**は猶ほ拒み戰い，**周主**は引見し，之に禮し，儀同大將軍に拜す。**三藏**は，**紹宗**（始め爾朱榮に従い、のちに高歡に事える）之子也。領軍大將軍の漁陽の**鮮于世榮**は，齊の**高祖**の舊將也。**周主**は先に馬腦（瑪瑙メノウ）の酒鐘を以

て之に遺り，**世榮**は得て即ち之を碎く。周の師は鄴に入り，**世榮**は三台の前に在りて鼓を鳴らし輟めず，周人は之を執る。**世榮**は屈せず，乃ち之を殺す。**周主**は**莫多婁敬顯**を執り，之を數めて曰く、

「汝は死罪三有り。前に晉陽より鄴に走り，妾を攜え母を棄てるは，不孝也。外に偽朝の為に力を戮(あわ)せ，內に實は啟を**朕**に通じるは，不忠也。款を送る之後，猶ほ兩端をして持するは，不信也。心を用いること此くの如し，死せずして何をか待たん！」

遂に之を斬る。將軍の**尉遲勤**をして**齊主**を追わ使む。

●［周主は鄴に入りて人材獲得］甲午（30-11+1=２０日），**周主**は鄴に入る。齊の國子博士（晉の武帝咸寧四年に初めて國子學を立て、國子祭酒・博士各々一人を置く。北齊は博士五人を置く）の長樂の**熊安生**は，博く《五經》に通じ，**周主**の鄴に入るを聞き，遽に門を掃わ令む。家人は怪しみ而して之を問い，**安生**は曰く、

「**周帝**は道を重んじ儒を尊び，必ず將に我を見んとす。」

俄に而して**周主**は其の家に幸す，拜するを聽さず，親ら其の手を執り，引いて與に同じく坐す。賞賜すること甚だ厚く，安車駟馬を給し以て自ら隨う。又た小司馬（北周の制では小冢宰。小司徒・小宗伯。小司馬・小司寇・小司空は皆上大夫、七命なり）の**唐道和**を遣わして中書侍郎の**李德林**の宅に就き宣旨し慰諭せしめて，曰く、

「齊を平らぐる之利は，唯だ爾(なんじ)に在り。」**(10-124p)**

引いて宮（鄴宮、周主はここにおる）に入れ，內史の**宇文昂**をして齊朝の風俗政教，人物の善惡を訪問せ使む。即ち內省（齊の門下省）に留め，三宿し乃ち歸らしむ。

北齊［齊の上皇は任城王湝に讓位を図る］乙未（31-11+1=21），齊の**上皇**は河を渡りて濟州に入る。是の日，**幼主**は位を大丞相の任城王の**湝**に禪る。又た**湝**の詔を為る。**上皇**を尊びて**無上皇**と為し，**幼主**を**宋國天王**（當に守國天王とすべし）と為す。侍中の**斛律孝卿**をして禪文及び璽紱（齊の制では、天子は六璽、受命の璽は他に在り）を瀛州に送ら令め，**孝卿**は即ち鄴に詣る（璽紱を以て周に帰す）。

●**周主**は詔す、

「去年大赦し未だ及ばざる所之處，皆な赦例に從うべし。」（去年州は晉陽に克ち大赦す。山東・河南・河北は猶齊にあり。今鄴に克ち大赦拡大）

北齊●［洛州刺史の獨孤永業の投降］齊の洛州刺史の**獨孤永業**は，甲士三萬有り，晉州の敗れるを聞き，出兵して周を擊つを請い，奏は寢ねて報ぜず。**永業**は憤慨す。又た并州の陷るを聞き，乃ち子の**須達**を遣わして降を周に請い，周は**永業**を以て上柱國と為し，應公（之は去年の事なり。齊滅びでここに叙す。應國公は古の邗・晉・應・韓の應を用て之を封じるなり）に封じる。

●丙申（32-11+1=２２日），周は越王の**盛**を以て相州（北魏は相州を鄴に置く・東魏は鄴に都して司州と改める。其の京畿の地なりて漢晉に倣う。周は既に齊を平らげまた諸州に列して相州とする）總管と為す。

北齊［齊の上皇は青州に逃亡］齊の**上皇**は**胡太后**を濟州に留め，**高阿那肱**をして濟州關（碻磝津の關）を守り，周の師を覘候せ使め，自ら**穆后**、**馮淑妃**、**幼主**、**韓長鸞**、**鄧長顒**等數十人と青州に奔る。內參の**田鵬鸞**をして西に出で，動靜を參伺せ使む。周の師は之を獲り，**齊主**が何くに在るか問い，紿(あざむ)いて云く、

「已に去る，計るに當に境（齊の境）を出でん。」

周人は其の信ぜざるを疑い，之を捶つ。每折一支（四肢）を折る每に，辭色は愈々厲し，竟に四支を折り而して死す。

北齊［遂に上皇捕縛］**上皇**は青州に至り，即ち陳に入らんと欲す。而るに**高阿那肱**は密に周の師を召し，生きて齊主を致すを約し，屢々啟して云く、

「周の師は尚ほ遠し，已に橋路を燒斷せ令む。」

上皇は是に由りて淹留して自ら寛くす。周の師は關に至り，**阿那肱**は即ち之に降る。周の師は青州に奄至し，**上皇**は金を囊(ふくろ)にし，鞍の後に繫け，**后**、妃、幼主等十餘騎と南に走る。己亥（35-11+1=２５日），南鄧村に至る。**尉遲勤**は追及し，盡く之を擒とし，**胡太后**を並せて鄴に送る。(齊は天保元年に禅譲以来四主二十年にして滅ぶ)

●［斛律光の再評価、手厚い占領政策］庚子（36-11+1=２６日），**周主**は詔す、

「故の**斛律光**（171 巻太建四年に死す)、**崔季舒**（太建五年に死す）等は，宜しく贈謚を追加し，並せて改葬を為すべし，子孫は各々蔭（漢以来、將相公卿は皆子弟もしくは孫を保任し、官と為るを得る。門蔭という者）に隨いて敘錄す。家口田宅の沒官する者は，並せて之を還すべし。」

周主は**斛律光**の名を指して曰く、

「此の人在れば，**朕**は安んぞ鄴に至るを得んや！」

辛丑（37-11+1=２７日），詔す

「齊之東山、南園、三台（皆高氏の游宴の場）は，並せて毀撤す可し。瓦木諸物の，用うる可き者は悉く以て民に賜う。山園之田は，各々其の主に還せ。」

■**二月**，壬午（18+60-40+1=３９日?、壬子?なら 48-40+1=９日），**上**は藉田を耕す。

●丙午（42-40+1=３日），**周主**は從官將士を齊の太極殿に宴し，頒賞すること差有り。**(10-125p)**

●丁未(43-40+1=４日），**高緯**（齊五代皇帝、上皇）は鄴に至り，**周主**は階（價×）を降り，賓禮を以て之に見える。

【高湝・高孝珩・高紹義の抵抗】

●北齊［齊の残存勢力・高湝の説得］齊の廣寧王の**孝珩**は滄州に至り，五千人を以て任城王の**湝**に信都（冀州は信都に治す。湝は河間より兵を進めて信都に至る。直隷省保定道冀県、現・邢台市信都区）に會し，共に匡復せんと謀り，召募して四萬餘人を得る。**周主**は齊王の**憲**、柱國の**楊堅**をして之を擊た使む。**高緯**をして手書を為りて**湝**を招か使む、從わず。**憲**の軍は趙州（魏の孝昌二年に定州相州の二州を分けて殷州を置き、廣阿に治す、後に趙州と改める。直隷州大名道隆平県、現・邢台市隆堯県）に至り，**湝**は二諜（諜者二人）を遣わして之を覘わしめ，候騎は執り以て**憲**に白す。**憲**は齊の舊將を集めて，遍く之を示し，謂って曰く、

「吾の爭う所の者は大なり，汝の曹に在らず。今汝を縱して還らしめ，仍って吾が使いに充てん。」

乃ち**湝**に書を與えて曰く、

「足下の諜者は候騎の拘える所と為り，軍中の情實は，諸(これ)を執事に具さん。戰いは上計に非ざること，疑いを卜するを待つ無し。守るは乃ち下策なり，或は未だ相い許さずば、已に諸軍に勒して分道して並進し，相い望むこと遠きに非ず，軾（車の横木。左傳に、城濮の役に楚の子玉は使いを遣わし、戰いを晉侯に請いて曰く、請う、君の士と戲れん。君は軾に憑りて之を望めと。故に引きて以て言を為す。兵車の軾は高さ三尺三寸、立ちて之に憑る）に憑らんこと期有り。『日を終わるを俟たず』(易の繫辭傳に曰く、君子は畿を見て作す、日わ終うるを待たずと。引きて以て湝に諭し、速かに降らしめんとするなり)，望む所は機を知る也！」

●北齊［高湝を獲り抵抗終わる］**憲**は信都に至り，**湝**は城南に陳し以て之を拒む。**湝**の署する所の領軍の**尉相願**（鄴の破れるや、相願は蓋し瀛州に奔る、湝は因って署して領軍と為す）は出でて陳を略すと詐り，遂に衆を以て降る。**相願**は，**湝**の心腹也，衆は皆な駭懼す。**湝**は**相願**の妻子を殺す。明くる日，復た戰い，**憲**は擊ちて之を破り，俘斬は三萬人，**湝**及び廣寧王の**孝珩**を執る。**憲**は**湝**に謂って曰く、

「任城王は何ぞ苦んで此に至るや？」

潜は曰く、
「下官は**神武皇帝**之子，兄弟十五人，幸に而して獨り存す。宗社の顛覆するに逢い，今日死するを得れば，墳陵（山陵。墳は土を盛る、陵は大阜）に愧じる無し。」
憲は之を壯とし，命じて其の妻子を歸す。又た親ら**孝珩**の為に瘡を洗い藥を傅き，禮遇は甚だ厚し。**孝珩**は歎じて曰く、
「**神武皇帝**より以外，吾が諸父兄弟は，一人として四十に至る者無き（文襄は盜手に死し年 29、顯祖は年 31、済南王は年 17、孝昭は年 27、武成は年 32）は，命也。嗣君は獨見之明無く，宰相は柱石之寄に非ず，兵符を握り，斧鉞を受け，我が心力を展べるを得ざるを恨む耳！」
●［齊王の憲は將士の心を得る］齊王の**憲**は善く兵を用い，謀略多く，將士の心を得る。齊人は其の威聲を憚り，多く風を望みて沮潰す。芻牧擾れず，軍は私する無し焉。
●北齊 突厥［高紹義を迎えた定州反乱鎮圧］**周主**は齊の降將の**封輔相**を以て北朔州總管と為す。北朔州（突厥に対する重要地）は，齊之重鎮にして，士卒は驍勇なり。前長史（齊の官）の**趙穆**等は**輔相**を執り任城王の**湝**を瀛州に迎えんと謀り，果たさず，乃ち定州（五代志に、博陵郡に旧定州を置く。直隷省保定道定県、現・定州市）刺史の范陽王の**紹義**を迎える。**紹義**は馬邑に至り，**(10-126p)** 肆州（ししゅう）（魏は九原に肆州に置く。六鎮の汜濫五に樓煩郡秀容県に寄治す、其の北は齊の北朔州。山西省冀寧道嵐県、現・呂梁市嵐県）より以北二百八十餘城は皆な之に應じる。**紹義**は靈州（地形志に、魏の太延にるんに薄骨律鎮を置く。孝昌二年に靈州を置き、東西分治す。其の地は西魏に属す。天兵中、東魏は復た靈州を置き、汾州隰城県界に寄治す。山西省冀寧道汾陽県、現・呂梁市汾陽市）刺史の**袁洪猛**と兵を引いて南に出，并州を取らんと欲す。新興（漢魏の古都、秀容の地、現・呂梁市嵐県）に至り，而るに肆州は已に周の為に守る，前隊の二儀同は所部を以て周に降る。周兵は顯州（魏の永安中に顯州を置き、汾州六壁城に治す。五代志に、雁門郡崞県に東魏は廓州を置く。北齊は北顯州に改める）を擊ち，刺史の**陸瓊**を執り，復た攻めて諸城を抜く。**紹義**は還りて北朔州を保つ。周の東平公の（宇文）**神舉**は兵を將いて馬邑に逼り，**紹義**は戰いて敗れ，北に突厥に奔り，猶を衆三千人有り。**紹義**は令して曰く、
「還らんと欲する者は其の意に從え。」
是に於いて辭去する者は大半なり。突厥の**佗鉢可汗**は常に齊の**顯祖**を謂って**英雄天子**と為し，**紹義**が重踝（太腿の両傍を内外踝という）し，之に似たるを以て，甚だ愛重せられる。凡そ齊人の北に在る者は，悉く以て之に隷す。
●［周は五十州を增す］是に於いて齊之行台、州、鎮は，唯だ東雍州行台の**傅伏**（永橋の功を以て東雍州行台に遷る。五代志に絳郡に北魏は東雍州を置く）、營州（遼西郡に營州を置き、和龍使めに治す、熱河朝陽県治、現・朝陽市双塔区）刺史の**高寶寧**は下らず，其の餘は皆な周に入る。凡そ州五十，郡一百六十二，**(10-127p)** 縣三百八十，戶三百三萬二千五百を得る。**高寶寧**者，齊之疏屬なり，勇略有り，久しく和龍に鎮し，甚だ夷、夏之心を得る。**周主**は河陽、幽、青、南兗、豫、徐、北朔、定に於いて總管府（ほぼ魏晋の都督）を置き，相、並二州（旧齊の二都）には各々宮及び六府官を置く。
突厥［紇奚永安を還す］周の師之晉陽に克つ也，齊は開府儀同三司の**紇奚永安**をして救いを突厥に求め使め，至る比おい，齊は已に亡ぶ。**佗鉢可汗**は**永安**を吐谷渾の使者之下に處し，**永安**は**佗鉢**に言って曰く、
「今齊國は已に亡び，**永安**は何の餘生を用いん！氣を閉じて自ら絕たんと欲するも，恐らくは天下は大齊に死節之臣無しと謂わん。乞う一刀を賜り，以て遠近に顯示せん。」
佗鉢は之を嘉とし，馬七十匹を贈り而して之を歸す。

●後梁［梁王は周主と宴会］**梁主**は鄴に入朝し。秦が天下を兼ねてより，朝覲之禮無し，是に至り始めて有司に命じて其の事を草具（草案）せしむ。積（米禾芻薪）を致し，餼（饔餼なり、牲腥を餼と曰う。或は曰く、客に生食及び芻米を饋るを餼と曰う）を致し，九儐（主の副、主を導きて以て禮を行なう者なり）、九介（賓の副なり、賓を輔けて以て禮を行なう者なり）を設ける（10-127p），享を廟に受け，三公、三孤、六卿食を致し，賓を勞（ねぎら）い，贊を還し，享を致し，皆な古禮の如し。**周主**は**梁主**と宴し，酒酣（たけなわ）にして，**周主**は自ら琵琶を彈ず。**梁主**は起ちて舞い，曰く、

「**陛下**は既に親しく五弦を撫し，臣何ぞ敢えて百獸と同じくせざらん（舜は五絃の琴を彈ず。夔曰く、於々予は石を擊ち石を拊てば、百獸率い舞うと。梁主は舜を以て周主に譬え、故に喜ぶ）！」

周主は大いに悦び，賜賚は甚だ厚し。乙卯（51-40+1=１２日），**周主**は鄴より西に還る。

【周の高祖の善政】

●［周の人材発掘］三月，壬午（18-10+1=９日），周は詔す、

「山東の諸軍は，各々明經・干治の者二人を舉げよ。若し奇才異術あり，卓爾不群なる者は，此の數に拘らず。」

●［周主は遂に傅伏を降す］**周主**之**尉相貴**を擒とする也（前漢前年にあり），齊の東雍州刺史の**傅伏**を招くも，**伏**は從わず。齊人は**伏**を以て行台右僕射と為す。**周主**は既に并州に克ち，復た**韋孝寬**を遣わして之を招き，其の子をして上大將軍、武鄉（陝西省關中道華陰県、現・渭南市華陰市）公の告身（官爵を授けるには皆給うに符を以てす、これをいう）及び金、馬腦二酒鐘を以て**伏**に賜わ令め信と為す。**伏**は受けず，**孝寬**に謂って曰く、

「君に事えては死有るも貳無し。此の兒、臣と為りては忠を竭す能わず，子と為りては孝を盡くす能わず，人の讎（あだ）とし疾む所なり，願わくは速かに之を斬り以て天下に令せん！」

周主は鄴より還り，晉州に至り，**高阿那肱**等百餘人を遣わして汾水に臨んで**伏**を召す。**伏**は軍を出し，水を隔てて之を見，問う、

「**至尊**は今何こに在るや？」

阿那肱は曰く、

「已に擒にせらる矣。」

伏は仰天して大哭し，衆を帥いて入城し，聽事（治官の處）の前に於いて北面して哀號すること，良く久しく，然る後に降る。**周主**は之を見て曰く、

「何ぞ早く下らざるや？」

伏は流涕して對えて曰く、

「臣は三世齊の臣と為り，齊の祿を食み，自ら死する能わず，天地を見るを羞ず！」

周主は其の手を執りて曰く、

「臣と為りては當に此くの如くあるべし。」

乃ち食する所の羊肋骨を以て**伏**に賜いて曰く、

「骨は親しく肉は疏なり，相い付する所以なり。」

遂に引いて宿衛せ使め，上儀同大將軍を授ける。之に敕して曰く、

「若し亟かに公に高官を與えば，恐らくは歸附の者の心動かん。努力して**朕**に事えよ，富貴を憂うる勿かれ。」

他日，又た問う、
「前に河陰を救いて（前巻七年にあり）何の賞を得るや？」
對えて曰く、
「一轉（勲級）を蒙り，特進、永昌郡公を授けられる。」
周主は**高緯**に謂って曰く、
「**朕**は三年戰いを教え，決して河陰を取る。正に**傅伏**が善く守り，城動く可からざるが為に，遂に軍を斂(おさ)め而して退く。公は當時功を賞すること，何ぞ其の薄きを也！」
●［周主は高緯ら齊の諸王に封爵］**夏，四月**，乙巳（41-39+1=３日），**周主**は長安に至り，**高緯**を前に置き，其の王公を後ろに列ね，車輿、旗幟、器物，次を以て之を陳す。大駕（秦の大駕は屬車 81 乘。漢は之を適用し千乘萬騎を備える。晉の盛んなるや大駕鹵簿は志に見える。開皇中に大駕は 12 乘、法駕は之に半す。周氏は六官を設け司輅の職を置き以て公車の政を掌ると雖も、隋の制を以てみるに、大駕の鹵簿は秦漢ほどではない）を備え、，六軍を布き，（10-128p）凱樂（功を獻ずるの樂）を奏し，俘を太廟に獻ず。觀る者は皆な萬歲を稱す。戊申（44-39+1=６日），**高緯**を封じて溫公と為し，齊之諸王三十餘人は，皆な封爵を受ける。**周主**は齊の君臣と飲酒し，溫公をして起ち舞わ令む。**高延宗**は悲しみて自ら持せず，屢々藥を仰がんと欲し，其の傅婢（かしづく婢）は之を禁止す。
●［麒麟鳳皇も李德林も用無し］**周主**は**李德林**を以て内史（北周の制では内史は春官に属す。中大夫は五命、下大夫は四命、上士は三命）の上士と為し，是より詔誥格式及び山東の人物を用いること，並せて以て之に委ねる。**帝**は從容として群臣に謂って曰く、
「我は常日唯だ**李德林**の名を聞き，復た其の齊朝の為に詔書移檄を作るを見，正に謂えらく是れ天上の人なりと。豈に言わんや今日其の驅使を得ん。」
神武公（郡公、北魏は神武郡を神武川に置く。山西省雁門道神池県、現・忻州市神池県）の**紇豆陵毅**は對えて曰く、
「臣は聞く、麒麟鳳皇は，王者の瑞為(た)り，德を以て感じる可し，力をもて致す可からず。麒麟鳳皇は，之を得るも用無し。豈に**德林**が，瑞為(た)り且つ用有るに如かん哉！」
帝は大いに笑いて曰く、
「誠に公の言の如し。」

【東西統一の周の内政充実】

●己巳（5+60-39+1=２７日），**周主**は太廟に享す。**五月**，丁丑（13-9+1=５日），周は譙王の**儉**を以て大塚宰と為す。庚辰（16-9+1=８日）杞公の**亮**を以て大司徒と為し，鄭公の**達奚震**を大宗伯と為し，梁公の**侯莫陳芮**を大司馬と為し，應公の**獨孤永業**を大司寇と為し，鄭公の**韋孝寬**を大司空と為す。
●［壯麗な宮殿の破棄令］己丑（25-9+1=１７日），**周主**は方丘（周の制、方丘は國陰六里の郊に在り。其の先炎帝神農氏を以て配す）を祭る。詔して以わく、
「路寢、會義、崇信、含仁、雲和、思齊の諸殿は，皆な晉公の**護**の專政する時に為る所なり，事は壯麗を窮め，清廟（周の文王を祀るの廟に倣いて之を為るなり。清廟は清明の德有る者を祭る宮なり）に逾える有り，悉く毀撤す可し。雕斫之物，並びに貧民に賜うべし。繕造之宜は，務めて卑樸に從うべし。」
戊戌（34-9+1=２６日），又た詔す、
「幷（並×）、鄴の諸堂殿（齊の営む宮殿）の壯麗なる者は此に准ず。」
●［周の高祖は勝ちて益々儉なり］臣**光**曰く、周の**高祖**は善く勝ちに處すと謂う可し矣！他人は勝てば則ち奢を益し，**高祖**は勝ち而して愈々儉なり。

●**六月**，丁卯（3+60-38+1=２６日），**周主**は東巡す。**秋，七月**，丙戌（22-8+1=１５日），洛州（洛陽に治す）に幸す。**八月**，壬寅（38-37+1=２日），議して權衡（はかり）度量を定め，之を四方に頒つ。

●［周は雑戸廃止］初め，魏は西涼（河西、沮渠氏が河西に拠りと涼王と称すより、宋の文帝元嘉16年に魏の太武帝は撃ちて之を虜とす）之人を虜とし，沒して隸戸と為す，**齊氏**は之に因り，仍って廝役（賤役なり。廝は薪を取る者）に供す。**周主**は齊を滅ぼし，寛惠を施こさんと欲し，詔して曰く、

「罪は嗣に及ばず，古は定科有り。雑役之徒は，獨り常憲（常法）に異なり，一に罪配に従い，百代免かれず，罰は既に窮まり無し，刑は何を以て措(お)かん！凡そ諸々の雑戸は，悉く放ちて民と為す。」

是より複た雑戸無し。

●［周主は瑞兆を信じず、焼かせる］甲子（60-37+1=２４），鄭州（この時猶ほ長社に在り、河南省開封道長葛県、現・許昌市長葛市の東）は九尾狐を獲り，已に死し，其の骨を獻ず。**周主**は曰く、

「瑞應之來たるは，必ず德有るを彰わす。若し五品（五常）時に敘(つい)で，四海和平ならば，乃ち能く此を致す。今其の時無し，恐らくは實錄に非ざらん。」

命じて之を焚かしむ。

●［周の服装の規制］**九月**，戊寅（14-7+1=８日），周は制して、**(10-129p)**

「庶人已上は，唯だ綢（綢は紬に同じ、大絲の繒）、綿綢（綿を紡ぎて作る、緊厚にして久服に耐える）、絲布（絲を以て布縷を裨けて之を織る）、圓綾、紗（方目の紗）、絹、綃（生糸の繒）、葛（葛越、夏悪に宜）、布（麻を以て之を作る）等九種を衣るを聽し，余は悉く之を禁じる。朝祭之服は，此の制に拘ず。」

●**冬，十月**，戊申（44-36+1=９日），**周主**は鄴に如く。

■●［陳は徐州兗州を取らんとす］**上**は周人が齊を滅ぼすを聞き，徐、兗（此れは禹迹の徐兗二州の地。禹貢に曰く、海岱より淮に及ぶまでは、惟れ徐州なり。濟より川までは惟れ兗州なりと）を爭わんと欲し，南兗州刺史、司空の**吳明徹**に詔して諸軍を督して之を伐たしめ，其の**世子**の戎昭將軍の**惠覺**を以て州事を攝行せしむ。**明徹**の軍は呂梁に至り，周の徐州總管の**梁士彥**は衆を帥いて拒み戰い，戊午（54-36+1=１９日），**明徹**は擊ちて之を破る。**士彥**は城を嬰して自ら守り，**明徹**は之を圍む。

■［陳は河南を定められず］**帝**は鋭意して以為らく、

「河南は指麾して定む可からん。」

中書通事舍人（魏の景初中、中書通事郎を置く。晉の初め舍人を置き、事を通ず。江左は舍人をして事を通じせしけ。惟を通じ舍人という。奏案を呈するを掌り、又詔命を掌る。陳氏は國を得、國の政事並びに中書省に由り、中書舍人五人有り、二十一局を分ち掌り、事各々尚書諸曹に當り、並びに上司と為し、国内の概要を総べる。尚書は唯だ聽受するのみ）の**蔡景歷**は諫めて曰く、

「師老い將は驕る，宜しく過ぎて遠略を窮むべからず。」

帝は怒り，以て衆を沮むと為し，出して豫章内史と為す。未だ行かず，飛章（怪文書、蓋し上の策略か）有り**景歷**が省に在りて贓污狼籍なるを劾し，坐して免官し，爵土を削られる。

●［宇文肱の改葬］周は**德皇帝**（宇文肱は宇文泰の父、宇文修禮に従いて定州を攻め、唐河に戦死。武成帝の初めに德皇帝と追諡す。其の地が齊に在りて改葬できず）を冀州に改葬す。**周主**は縗を服し，太極殿に哭す。百官は素服す。

●［北周の前皇帝高緯を誅殺］周人は溫公の**高緯**が宜州刺史の**穆提婆**と反を謀ると誣し，其の宗族と並せて皆な死を賜る。衆人は多く自ら之無きを陳ず，**高延宗**は獨り袂を攘い泣き而して言わず，椒を以て口を塞ぎ而して死す。唯だ**緯**の弟の**仁英**は清狂（白痴）を以て，**仁雅**は瘖疾（唖）を以て免かるるを得，蜀に徙

す。其の餘の親屬は，殺さざる者は西土（長安より西辺）に散配し，皆な邊裔に死す。

●［高湝の妻盧氏は笑わず］**周主**は**高湝**の妻の**盧氏**（山東の高門、史はその能く節を守るをいう）を以て其の將の**斛斯征**に賜う。**盧氏**は蓬首垢面し，長齋（仏教に依り、蔬素を食らい肉を食らわず）して，言笑せず。**征**は之を放ち，乃ち尼と為る。齊の**后**、妃の貧しき者は，以て燭を賣るを業と為すに至る。

●**十一月**，壬申（8-6+1=３日），周は皇子の**衍**（武帝紀には充につくる。宗室傳にいう、道王充は建徳六年に封じらると）を立てて道（古の国名、春秋には江・黄・道・柏有り）王と為し，**兌**を蔡王と為す。

●［稽胡の独立］癸酉（9-6+1=４日），周は上大將軍の**王軌**を遣わして兵を將いて徐州を救わしむ。初め，周人は齊の師を晉州に敗り（前巻八年にあり），勝ちに乗りて北げるを逐う。齊人の棄てる所の甲仗は，未だ收斂する暇あらず，稽胡は間に乗りて竊に出，並せて盜み而して之を有つ。仍って**劉蠡升**（高歡に滅ぼされるは 157 巻梁の武帝大同元年にあり）之孫の**沒鐸**を立てて主と為し（10-130p），**聖武皇帝**と號し，改元して石平とす。

●［稽胡討伐］周人は既に關東（齊）に克ち，將に稽胡を討たんとし，議して其の巢穴を窮めんと欲す。齊王の**憲**は曰く、

「步落稽は種類既に多く，又た山谷は險絕し，王師は一舉し，未だ盡く除く可からず。且く當に其の魁首を剪り，余は慰撫を加えるべし。」

周主は之に從い，**憲**を以て行軍元帥（ここから始まる職名）と為し，諸軍を督して之を討たしむ。馬邑に至り，道を分けて俱に進む。**沒鐸**は分けて其の黨の**天柱**を遣わして河東（西河の離石、現・呂梁市離石区）を守り，**穆支**をして河西を守り，險に據り以て之を拒がしむ。**憲**は譙王の**儉**に命じて**天柱**を擊たしめ，滕王の**逌**をして**穆支**を擊たしめ，並せて之を破り，斬首すること萬餘級。趙王の**招**は**沒鐸**を擊ち，之を擒とし，餘衆は皆な降る。

●［奴婢解放令、後宮のリストラ］周は詔す、

「永熙三年（北魏光武帝が宇文泰を頼りて關中に入る）より以來，東土之民は（東西攻伐交々）掠められて奴婢と為る者，及び江陵に克つ之日，良人の沒して奴婢と為る者，並せて放ちて良と為す。」

又た詔す、

「後宮は唯だ妃二人，世婦三人，御妻三人を置き，此の外は皆な之を減ず。」

●［周主は節儉嚴峻、將士は威を畏れる］**周主**は性は節儉にして，常に布袍を服し，布被に寢ね，後宮は十餘人に過ぎず。兵を行なう毎に，親ら行陳に在り，山谷を步涉し，人の堪えざる所なり。將士を撫して恩有り，而して明察果斷にして，法を用いるに嚴峻なり。是に由りて將士は威を畏れ而して之が為に死するを樂しむ。

■己亥（35-6+1=0 日、元嘉暦では十二月１日）晦，日之を食する有り。

●［刑書要制］周は初めて《刑書要制》を行なう。群盜は一匹を贓し，及び正、長（五家を保とし、長有り。五保を閭とし、閭四を族とし、皆正有り。畿外には里正を置き、閭齊に比し、黨長は族正に比し、以て相檢察す）五丁、若しくは地頃（百畝を頃とす）以上を隱せば，皆な死す。

■**十二月**，戊申（44-35+1=10），新たに東宮を作りて成る，**太子**は徙りて之に居る。

●庚申（56-35+1=２２日），**周主**は并州に如き，并州の軍民四萬戶を關中に移す。戊辰（4+60-35+1=３０日），并州宮及び六府を廢す。（今年春に置く）

北齊 突厥［齊の突厥亡命政権］**高寶寧**は黃龍（和龍、現・朝陽市）より上表して**高紹義**に勸進し，**紹義**は遂

に**皇帝**を稱し，改元して武平とし，**寶寧**を以て丞相と為す。突厥の**佗鉢可汗**は擧兵して之を助く。

高宗宣皇帝中之下太建十年（戊戌，５７８年）

●**春，正月**，壬午（18-5+1=１４日），**周主**は鄴に幸す。辛卯（27-5+1=２３日），懷州（河内郡野王に治す、河南省河北道沁陽県、現・焦作市沁陽市）に幸す。癸巳（29-5+1=２５日），洛州に幸す。懷州宮を置く。

●**二月**，甲辰（40-34+1=７日），周の譙孝王の**儉**は卒す。

●丁巳（53-34+1=２０日），**周主**は長安に還る。

【澎城の戦い】

■●［**吳明徹は周の彭城を圍む**］**吳明徹**は周の彭城を圍み，舟艦を城下環列し，之を攻めること甚だ急なり。**王軌**は兵を引いて輕行し，**(10-131p)** 淮口（清水の淮に入る所）に據り，長圍を結び，鐵鎖を以て車輪數百を貫き，之を清水に沈め，以て陳の船の歸路を遏（とど）め，軍中恟懼す。譙州刺史の**蕭摩訶**は**明徹**に言って曰く、

「聞く**王軌**は始め下流を鎖（とざ）し，其の兩端に築城し，今尚を未だ立たず，公が若し見に遣わして之を擊たしめば，彼は必ず敢えて相い拒まず。水路は未だ斷たず，賊勢は堅からず。彼の城若し立てば，則ち吾が屬は必ず虜と為らん矣。」

明徹は髯を奮いて曰く、

「旗を搴（と）り陳を陷るるは，將軍の事也。長算遠略は，老夫の事也。」

摩訶は色を失い而して退く。一旬之間，水路は遂に斷つ。

■●［**吳明徹は捕虜、蕭摩訶は帰還**］周兵は益々至り，諸將は議す、

「堰を破り軍を拔き，舫を以て馬を載せ而して去らん。」

馬主（馬軍主）の**裴子烈**は曰く、

「若し堰を破りて船を下せば，船は必ず傾倒せん，先ず馬を遣りて出すに如かず。」

時に**明徹**は背疾に苦しむこと甚だ篤く，**蕭摩訶**は復た請いて曰く、

「今戰を求めて得ず，進退に路無し。若し軍を潛めて圍みを突くは，未だ恥と為るに足らず。願わくは公は步卒を帥い、馬輿に乘りて徐行すべし。**摩訶**は鐵騎數千を領して前後に驅馳し，必ず當に公をして安く京邑（建康）に達せ使めん。」

明徹は曰く、

「弟之此の策は，乃ち良圖也。然るに步軍は既に多く，吾は總督為（た）り，必ず須く身は其の後に居るべし，相い帥いて兼行すべし。弟の馬軍は宜しく須く前に在り，遲緩す可からず。」

摩訶は因りて馬軍を帥いて夜發す。甲子（60-34+1=２８日），**明徹**は堰を決し，水勢に乘りて軍を退く。以て淮に入るを冀（こいねが）う。清口に至り，水勢は漸く微なり，舟艦は並びて車輪に礙（さまた）げられ，復た過ぎるを得ず。**王軌**は兵を引いて圍み而して之を蹙め，衆は潰える。**明徹**は周人の執る所と為り，將士三萬並びに器械輜重は皆な周に沒す。**蕭摩訶**は精騎八十を以て前に居りて圍みを突き，衆騎は之に繼ぎ，旦に比びて，淮南に達し，將軍の**任忠**、**周羅睺**と獨り軍を全くして還るを得る。

■［**毛喜の和合策に転換**］初め，**帝**は彭（彭城）、汴（汴水）を取らんと謀り，以て五兵尚書（中兵・外兵・別兵・都兵・騎兵を掌る）の**毛喜**に問う，對えて曰く、

「淮左は新たに平らぎ，邊民は未だ輯(やす)んぜず。**周氏**は始めて齊國を呑み，與に鋒を爭い難し。且つ舟戰（續は舟篇に樴）之工を棄て，車騎之地（徐州兗州の地は四平にして車軌騎突に便なり）を踐み，長を去りて短に就く，吳人の便とする所に非ず。臣愚は以為えらく民を安んじて境いを保ち，兵を寢め好を結ぶに如かず，斯れ久長之術也。」

明徹の敗れるに及び，**帝**は**喜**に謂って曰く、

「卿の言は今に於いて驗なり矣。」

即日，**蔡景歷**を召して，復て以て征南咨議參軍と為す。

●**周主**は**吳明徹**を封じて懷德公（郡公）と為し，位は大將軍。**明徹**は憂憤し而して卒す。

●乙丑（1+60-34+1=２８日），周は越王の**盛**を以て大塚宰と為す。

●**三月**，戊辰（4-4+1=１日），周は蒲州（五代志に、河東郡は北魏では秦州という。北周は蒲州と改める。蒲阪に因りて名づける。山西省河東道永濟県、続の河南省は間違い、現・運城市永濟市）に宮を置き，同州（馮翊に治す）及び長春二宮（朝邑に在り、馮翊の屬県）を廢す。

●甲戌（10-4+1=７日），**周主**は初めて常冠を服し，皁紗の全幅を以て後ろに向かいて（10-132p）發（髪）を撙(つつ)み（頭巾），仍って裁ちて四腳と為す。

■［陳は周南下への防衛策］丙子（12-4+1=９日），中軍大將軍（陳の制で品第二、秩中二千石）、開府儀同三司(品第一、秩萬石)の**淳於量**に命じて大都督と為り，水陸諸軍事を總べしめ，鎮西將軍の**孫瑒**をして荊、郢諸軍を督さしめ，平北將軍の**樊毅**をして清口上を都督し荊山に至り淮諸軍に緣い，寧遠將軍（梁が置く、陳の制では官品第五）の**任忠**をして壽陽、新蔡（戈陽郡の界、河南省汝陽道新蔡県、現・駐馬店市新蔡県）、霍州諸軍を都督せしめ，以て周に備えしむ。

■乙酉（21-4+1=１８日），大赦す。

●壬辰（28-4+1=２５日），周は改元して宣政とす。

【周の高祖殂し、宣帝横暴】

●突厥**夏，四月**，庚申（56-34+1=２３日），突厥は周の幽州を寇し，吏民を殺掠す。

■戊午（54-34+1=２１日），**樊毅**は軍を遣わして淮北に渡り，清口に對して築城す。壬戌（58-34+1=２５日），清口城は守らず。

●突厥［周主は突厥討伐に出発］**五月**，己丑（25-3+1=２３日），周の**高祖**（周主は此の役で殂す、故に廟号を書す）は諸軍を帥いて突厥を伐ち，柱國の原（古の國の名）公の**姬願**、東平公の**神舉**等を遣わして兵を將いて五道より俱に入る。

●［高祖は殂す］己丑（癸巳×、25-3+1=２３日），**帝**は不豫なり，雲陽宮（五代志に京兆郡雲陽県に北周は雲陽郡を置く、蓋し又別宮をここに置く、陝西省關中道涇陽県の北、現・咸陽市涇陽県）に留止す。丙申（32-3+1=３０日），詔して諸軍を停める。宗師（北周の官、蓋し諸の宗室を掌る、天官に屬し中大夫、五命）の**宇文孝伯**（長安に留まる）を驛召し行在所に赴かしめ，**帝**は其の手を執りて曰く、

「吾は自ら量るに必ず濟理（回復）無し，後事を以て君に付す。」

是の夜，**孝伯**に司衛上大夫（上大夫は皆六命）を授け，宿衛の兵を總べしむ。又た驛を馳せて入京し鎮守して，以て非常に備え令む。**六月**，丁酉（33-33+1=１日、元嘉曆は五月閏）朔，**帝**は疾甚だしく，長安に還る。是の夕に殂す，年三十六。

●［太子即位、高祖の死は晩し］戊戌（34-33+1=２日），**太子**は即位す。**皇后**の**阿史那氏**を尊びて**皇太后**と為す。**宣帝**は始めて立ち，即ち奢欲を逞しくす。大行は殯に在るに，曾て戚容無し，其の杖痕（帝に鞭打たれた痕）を捫で，大いに罵りて曰く、

「死すること晩し矣！」

高祖の宮人を閲視し，逼りて淫慾を為す。吏部下大夫の**鄭譯**（寵あるは前巻八年にあり）を超拝して開府儀同大将軍、内史中大夫と為し，委ねるに朝政を以てす。

●［素早い葬儀と喪服明け］己未（55-33+1=２３日），**武皇帝**を孝陵に葬り，廟號を**高祖**とす。既に葬し，内外に詔して公除（公に喪服を除く）し，**帝**及び六宮は皆な吉（吉服）に即かんと議す。京兆の郡丞（171 巻五年に就任）の**樂運**は上疏して，以為く、

「葬期既に促かに（わずか２３日），事訖わりて即ち除く，太だ汲汲たりと為す。」（余りに喪服明けが早いとの諫言）

帝は従わず。

●［齊王憲を除く陰謀］**帝**は齊の煬王の**憲**が屬尊く望重しを以て，之を忌む。**宇文孝伯**に謂って曰く、

「公は能く**朕**の為に**齊王**を圖れ，當に其の官を以て相い授けん。」

孝伯は叩頭して曰く、

「**先帝**の遺詔に，濫りに骨肉を誅するを許さず。**齊王**は，**陛下**の叔父為り，功高く德茂く，社稷の重臣なり。**陛下**が若し故無く之を害し，(10-133p) 臣も又た旨に順い曲げて従えば，則ち臣は不忠之臣と為り，**陛下**は不孝之子と為る矣。」

帝は懌ばず，是に由りて之を疏んず。乃ち開府儀同大将軍の**於智**、**鄭譯**等と密に之を謀り，**智**をして宅に就きて**憲**を候わ使む，因りて告ぐ、

「**憲**に異謀有り。」

●［齊王憲の誅殺］甲子（60-33+1=２８日），**帝**は**宇文孝伯**を遣わし**憲**に語らしめ，**憲**を以て太師（三師の首）と為さんと欲し，**憲**は辭讓す。又た**孝伯**をして**憲**を召さ使め，曰く、

「晩に諸王と倶に入れ。」

既に殿門に至り，**憲**は獨り引き進められ。**帝**は先ず壯士を別室に伏し，至り，即ち之を執る。**憲**は自ら辨理し，**帝**は**於智**をして**憲**を證せ使め，**憲**の目光は炬の如し，**智**と相い質（証験）す。或は**憲**に謂って曰く、

「王の今日の事勢を以て，何の多言を用いん！」

憲は曰く、

「死生、命有り，寧んぞ復た存を圖らんや！但だ老母は堂に在り，茲の恨みを留めんを恐れる耳！」

因りて笏を地に擲つ。遂に之を縊る。

●［參軍李綱は辭を橈げず］**帝**は**憲**の僚屬を召し，**憲**の罪を證成せ使む。參軍の勃海の**李綱**は，之を誓うに死を以てし，終に辭を橈げる無し。有司は露車（蓋の無い車）を以て**憲**の屍を載せ而して出で，故に吏は皆な散ず，唯だ**李綱**は棺を撫でて號慟し，躬自ら之を瘞め，哭拜し而して去る。

●［齊王憲の伴死］又た上大将軍の**王興**、上開府儀同大将軍の**獨孤熊**、開府儀同大将軍の**豆盧紹**（豆盧は本姓は慕容、燕の北地王精の後なり、中山敗れて魏に帰す。北人は帰義言って豆盧と為す）を殺す，皆な素より**憲**と親善する者也。**帝**は既に**憲**を誅するに而して名無し，乃ち、

「興等と謀反す」

と雲い，時の人は之を「伴死」と謂う。

●**于智**を以て柱國と為し，齊公に封じ，以て之を賞す。

●**閏月**（元嘉暦六月），乙亥（11-2+1=１０日），**周主**は妃の**楊氏**（楊堅の女）を立てて**皇后**と為す。
●辛巳（17-2+1=１６日），周は趙王の**招**を以て太師と為し，陳王の**純**を太傅と為す。

北齊●突厥［高紹義の決起失敗］齊の范陽王の**紹義**は周の**高祖**の殂するを聞き，以て天助を得ると為す。幽州人の**盧昌期**は，兵を起こして范陽に據り，**紹義**を迎え，**紹義**は突厥兵を引いて之に赴く。周は柱國の東平公の**神擧**を遣わして兵を將いて**昌期**を討たしむ。**紹義**は幽州（五代志に、幽州は薊城に治す。現・北京市大興区）總管の出兵して外に在るを聞き，虚に乗りて薊を襲わんと欲し，**神擧**は大將軍の**宇文恩**を遣わして四千人を將いて之を救わしめ，半ば**紹義**の殺す所と為る。會々**神擧**は范陽に克ち，**昌期**を擒とす。**紹義**は之を聞き，素衣して哀を擧げ，還りて突厥に入る。**高寶寧**は夷、夏數萬騎を帥いて范陽を救い，潞水（水經注に、鮑丘水は禦夷の北塞中に出ず、続に之を大榆河と謂う。南して潞県を過ぎ潞水と為す。山西省冀寧道潞城県、現・長治市潞城区）に至り，**昌期**の死を聞き，還り，和龍に據る。
●**秋，七月**，**周主**は太廟に享す。丙午（42-32+1=１１日），圜丘に祀る。
●［宣帝は側近を固める、楊堅枢要に］庚戌（46-32+1=１５日），周は小宗伯の**斛斯征**を以て大宗伯と為す。壬戌（58-32+1=２７日），亳州（五代志に、譙郡に北魏は南兗州を置く。北周は總管府を置く。後に改めて亳州という。安徽省淮泗道亳県、現・亳州市）總管の**楊堅**を以て上柱國、大司馬と為す。**(10-134p)**
●癸亥（59-32+1=２８日），**周主**は生む所の母の**李氏**を尊んで**帝太后**と為す。
●**八月**，丙寅（2-1+1=２日），**周主**は西郊に祀る。壬申（8-1+1=８日），同州に如く。大司徒の杞公の**亮**を以て安州總管と為し，上柱國の**長孫覽**を大司徒と為し，楊公の**王誼**を大司空と為す。丙戌（22-1+1=２２日），永昌公の**椿**を以て大司寇と為す。
■［陳の方明壇の盟い］**九月**，乙巳（41-31+1=１１日），方明壇（盟約に用いる壇。方四尺の木に六色を設けた方明を壇上に置く。東方は青、南方は赤、西方は白、北方は黒、上は玄、下は黄なり、上下四方神明の象なり）を婁湖に立てる。戊申（44-31+1=１４日），揚州刺史の始興王の**叔陵**を以て王官伯（古は天子は諸侯に盟うに、天子の老をして之に涖ましむ、之を王官伯という。時に澎城は師を喪ひ、陳人は上下心を揺かす、故に是盟を為す）と為し，臨みて百官に盟う。
●庚戌（46-31+1=１６日），**周主**は其の弟の**元**を封じて荊王と為す。
●**周主**は詔す、
「諸々の應に拜すべき者は，皆な三拜（夷禮）を以て禮を成す。」
■甲寅（50-31+1=２０日），**上**は婁湖に幸し衆に誓う。乙卯（51-31+1=２１日），大使を分遣して盟誓を以て四方に班下（頒布）し，上下相い警戒せしむ。
●**冬，十月**，癸酉（9-0+1=１０日），**周主**は長安に還る。大司空の**王誼**を以て襄州（五代志に襄陽郡に江左は雍州を僑置す、西魏は改めて雍州という。湖北省襄陽道襄陽県、現・襄陽市襄城区）總管と為す。戊子（24-0+1=２４日），尚書左僕射の**陸繕**を以て尚書僕射と為す。
●突厥**十一月**，突厥は周の邊を寇し，酒泉（郡、甘粛省安粛道酒泉県の東北、現・酒泉市粛州区）を圍み，吏民を殺掠す。
●**十二月**，甲子（60-59+1=２日），周は畢王の**賢**を以て大司空と為す。
●■己丑（25+60-59+1=２７日），周は河陽總管の滕王の**逌**を以て行軍元帥と為し，衆を帥いて入寇す。

高宗宣皇帝中之下太建十一年（己亥，５７９年）

●［初めて漢魏の衣冠を服す］春，正月，癸巳（29-29+1=１日），**周主**は朝を露門（路門につくるべし、路は大の意味で、周の外朝）に受け，始めて群臣と漢、魏の衣冠を服す。（是を以て北周の君臣は胡服を着ていた事が分かる。北魏孝文帝が胡服禁止をしていたのは、分裂後元に戻ったようだ）大赦し，改元して大成とす。四輔官を置く。大塚宰の越王の**盛**を以て大前疑と為し，相州總管の蜀公の**尉遲迥**を大右弼と為し，申公の**李穆**を大左輔と為し，大司馬の隨公の**楊堅**を大後承と為す。

●［周主の秘密警察は峻厳］**周主**之初めて立つ也，**高祖**の《刑書要制》（前の九年にあり）を以て太だ重しと為し而して之を除き，又た數々赦宥を行なう。京兆の郡丞の**樂運**は上疏して，以為く、

「《虞書》稱する所の『眚災は肆赦す』とは，過誤して害を為すは，當に之を緩赦すべきを謂う。《呂刑》に云う、『五刑之疑わしきは赦有り』。刑の疑わしきは罰に從い，罰の疑わしきは免に從うを謂う也。謹しみて經典を尋ねるに，未だ罪は輕重と無く，溥天（天の地上を覆うかぎり）大赦するの之文有らず。大尊（至尊）は豈に數々非常之惠を施し，以て奸宄之惡を肆(ゆる)す可けん乎！」

帝は納れず。既に而して民は輕々しく法を犯し，又た自ら奢淫にして過失多きを以て，人の規諫するを惡み，威虐を為して，群下を懾服せんと欲す。乃ち更に《刑經聖制》を為り（10-135p），用法を用いること益々深く，大いに正武殿に醮（壇を設けて神を祭る。五代志に、道家の齋法は夜中に星辰の下に於いて酒脯・糗餌・幣者を陳設し、天皇太一を歷祀し、五星列宿を祀り、書を為り香を焼き陳讀して「上天曹に奏す」という、これを醮という）し，天に告げ而して之を行う。密に左右をして群臣を伺察せ令め，小しく過失有れば，輒ち誅譴を行なう。

【宣帝は高祖のお目付役を誅殺】

●［樂運の八項目の忠諫］又た，喪に居りて才(わずか)に年を逾えれば，即ち聲樂を恣にし，魚龍百戲（五代志に、齊の武平中に、魚龍・爛漫・俳優・侏儒・山車・巨象・抜井・種瓜・殺馬・剥驢など有り、奇怪異端百餘仏を百戲と為す）は，常に殿前に陳(つら)ね，日を累(かさ)ね夜を繼ぎ，休息するを知らず。多く美女を集め以て後宮を實たし，位號を增置すること，詳錄す可からず。游宴は沉湎し，或は旬日出でず，群臣の事を請う者は，皆な宦者に因りて之を奏す。

是に於いて**樂運**は櫬（空棺）を輿いて朝堂に至り，**帝**に八失を陳べる。

其の一に，以為く、「**大尊**は比來、事は多く獨斷す，諸々の宰輔に參し，衆と之を共にせず」。

其の二，「美女を搜して以て後宮を實たす，儀同以上の女は輒ち嫁するを許さず，貴賤は同じく怨む」。

其の三，「**大尊**は一たび後宮に入れば，數日出でず，須く聞奏すべき所，多く宦者に附す」。

其の四，「詔を下して刑を寬くし，未だ半年に及ばざるに，更に前制より嚴なり」。

其の五，「**高祖**は雕を斫りて樸と為し，崩じて未だ年を逾えざるに，而して遽に奢麗を窮める」。

其の六，「下民に徭賦し，以て俳優角抵に奉ず」。

其の七，「上書の字誤まる者は，即ち其の罪を治め，獻書之路を杜(ふさ)ぐ」。

其の八，「玄象（日月星辰の天象）誡めを垂れるとも，善道を咨諏し，德政を修布する能わず」。

「若し茲の八事を革(あらた)めざれば，臣は周廟の血食（犧牲を薦めて祭祀する）せざるを見ん矣。」

帝は大いに怒り，將に之を殺さんとす。朝臣は恐懼し，救う有る者莫し。內史中大夫の洛陽の**元巖漢**は曰く、

「**臧洪**（陳容・臧洪死すは 61 卷漢の獻帝興平二年にあり）と同じく死するすら，人は猶ほ之を願う，況んや**比干**（樂運の忠諫する比す、殷代の王族、紂王に対に諫言をし、紂王は「聖人の心臟には七竅（人の顔の七穴）があるそうだ。それを見てみたいものだ」と言い比干を殺害し、胸を切り開いた）を乎！若し**樂運**免かれざれば，吾は將に之と俱に斃れん。」

乃ち閣に詣りて見えるを請い，曰く、

「**樂運**は其の死を顧みず，以て名を求めんと欲す。**陛下**は勞り而して之を遣り，以て聖度を廣げるに如かず。」

帝は頗る感悟す。明くる日，**運**を召し，謂って曰く、

「**朕**は昨夜、卿の奏する所を思い，實に忠臣と為す。」

御食を賜い而して之を罷む。

●癸卯（39-29+1=１１日），周は皇子の**闡**を立てて魯王と為す。

●甲辰（40-29+1=１２日），**周主**は東巡す。丙午（42-29+1=１４日），許公の**宇文善**を以て大宗伯と為す。戊午（54-29+1=２６日），**周主**は洛陽に至る。魯王の**闡**を立てて**皇太子**と為す。

■**二月**，癸亥（59-58+1=２日），**上**は藉田を耕す。

●周は下詔し，洛陽を以て東京と為す。山東諸州の兵を發して洛陽宮を治めしむ，常に四萬人を役す。相州の六府（前の九年に置く）を洛陽に徒す。

●<u>［徐州總管の王軌の決意］</u>周の徐州總管の**王軌**は，**鄭譯**が事を用いるを聞き，自ら禍いに及ばんと知り，親する所に謂って曰く、

「吾は昔先朝に在り，實（続は寔）に社稷の至計を申ぶ。今日之事は，斷じて知る可し矣。此の州は淮南を控帶し，強寇（陳）に鄰接し，**(10-136p)** 身の計を為さんと欲すれば，易きこと掌を反すが如し。但だ忠義之節は，虧違す可からず，況んや**先帝**の厚恩を荷ない，豈に罪を**嗣主**に獲るを以て，遽に之を忘れる可けん邪！正（続は止）に此に死を待つ可し，千載之後に，吾が此の心を知るを冀う耳！」

●<u>［王軌の誅殺、元巖の失脚］</u>**周主**は從容として**譯**に問いて曰く、

「我が腳の杖痕は，誰が為す所也？」

對えて曰く、

「事は**烏丸軌**（王軌は烏丸の姓を賜る）、**宇文孝伯**に由る。」

因りて**軌**が鬚を捋（と）る（前巻八年にあり）事を言う。**帝**は内史の**杜慶信**をして州に就きて**軌**を殺さ使め，**元巖**は肯えて詔に署せず。御正（武成元年に御正四人を置く）中大夫の**顏之儀**は切諫し，**帝**は聽かず，**巖**は進みて之を繼ぎ，巾を脫ぎ頓顙し，三拜三進す。**帝**は曰く、

「汝は**烏丸軌**に黨せんと欲する邪？」

巖は曰く、

「臣は**軌**の黨に非ず，正に恐るるは、濫誅すれば天下之望を失うを。」

帝は怒り，閹豎（宦官）をして其の面を搏た使む。**軌**は遂に死し，**巖**も亦た家に廢せらる。遠近は知ると知らざると，皆な**軌**の為に流涕す。**之儀**は，**之推**（先に齊に事え、齊滅びて周に入る）之弟也。

●<u>［尉遲運は秦州總管に逃げる］</u>**周主**之**太子**と為る也，上柱國の**尉遲運**は（太子の）宮正と為り，數々諫を進めるも，用いず。又た**王軌**、**宇文孝伯**、**宇文神舉**と皆な**高祖**の親待する所と為る，**太子**は其の同じく己を毀（そし）れるを疑う。**軌**の死するに及び，**運**は懼れ，私に**孝伯**に謂って曰く、

「吾が徒は必ず禍いを免れず，之を為すこと奈何？」

孝伯は曰く、

「今堂上に老母有り，地下に**武帝**（高祖）有り。臣為り子為り，知んぬ、何くに之かんと欲するや！且つ質を委して人に事え，本は名義に徇う。諫め而して入れざれば，死焉んぞ逃れる可けんや！足下は若し身の計を為せば，宜しく且く之に遠ざかるべし。」

是に於いて**運**は出んことを求めて秦州（甘粛省渭川道天水県、現・天水市）總管と為る。

●［宇文孝伯に死を賜る］他日，**帝**は托するに齊王の**憲**の事を以て**孝伯**を譲めて曰く、
「公は**齊王**の謀反を知り，何を以て言わざるや？」
對えて曰く、
「臣は**齊王**が社稷に忠にして，群小の譖する所と為るを知り，言うとも必ず用いず，言わざる所以なり。且つ**先帝**は微臣に付囑し，唯だ**陛下**を輔導せ令む。今諫め而して從わざれば，實（続は寔）に顧托に負かん。此を以て罪と為せば，是れ甘心する所なり。」
帝は大いに慚じ，首を俯（続は俛）いて語らず，命じて將いて出でしめ，死を家に賜う。
●［宇文神舉を鴆殺、尉遲運は憂卒］時に**宇文神舉**を并州刺史と為し，**帝**は遣使して州に就き之を鴆殺せしむ。**尉遲運**は秦州に至り，亦た憂を以て死す。（高祖の付けた守り役全滅）
●周は南伐の諸軍を罷む。
●突厥［突厥に千金公主を送る］突厥の**佗鉢可汗**は和を周に請い，**周主**は趙王の**招**の女を以て**千金公主**と為し，之に妻あわせ，且つ命じて執りて**高紹義**を送らしむ。**佗鉢**は從わず。

【天元皇帝の横暴】

●［宣帝は譲位して天元皇帝と為る］辛巳（17+60−58+1=２０日），周の**宣帝**は位を**太子**の**闡**に傳え，大赦し，改元して大象とし，自ら**天元皇帝**と稱し，居る所を「天台」と稱し，冕二十四旒，車服旗鼓は皆な前王之數に倍す。**(10−137p) 皇帝**は**正陽宮**と稱し，納言（保定四年に宗伯を納言とする）、御正、諸衛等の官を置き，皆な天台に准（続は準）ず。**皇太后**を尊びて**天元皇太后**と為す。
●［天元皇帝は尊大窮まる］**天元**は既に位を傳え，驕侈は彌々甚だしく，務めて自ら尊大にし，顧み憚る所無く，國之儀典は，情に率（したが）いて變更す。臣下に對する毎に自ら稱して天と為し、樽、彝（古の禮器、六尊六彝有り、尊に罍有り彝に舟有り）、珪、瓚（瓚は祼祭に用いる所の勺、圭を以て柄と為すを圭瓚という）を用い以て飲食す。群臣をして天台に朝する者をして，齋に致すこと三日，身を清めること一日なら令む。既に自ら**上帝**に比し，群臣が己に同じするを欲せず，常に自ら綬を帶び，及び通天冠を冠り，金を加え蟬を附け（乃ち侍中常侍の冠する武弁），侍臣の弁上に金蟬有り及び王公に綬有る者を顧見すれば，並びて之を去ら令む。人に「天」、「高」、「上」、「大」之稱有るを聽さず，官名は犯す有れば，皆な之を改む。姓の高なる者を改めて「姜」と為し（齊の太公の後に采を高に食む、故に氏と為す。元は羌姓なり、改めて戻す），九族の高祖と稱する者は「長祖」と為す。又た天下の車をして皆な渾木を以て輪と為さ令む。天下の婦人に禁じて粉黛（化粧粉と眉墨）を施すを得ざらしめ，宮人に非ざるよりは，皆な黃眉墨汝せしむ。
●［天元は誰彼無く鞭打つトラウマ］侍臣を召して論議する毎に，唯だ興造變革せんを欲し，未だ嘗て政事に言及せず。遊戲は常無く，出入節あらず，羽儀仗衛は，晨に出でて夜還り，陪侍之官は，皆な命に堪えず。公卿より以下，常に楚撻せられる。人を捶つ毎に，皆な百二十を以て度と為し，之を「天杖」と謂い，其の後又た加えて二百四十に至る。宮人內職も亦た之の如く，**后**、妃、嬪、御，寵幸されると雖も，亦た多く背を杖たれる。是に於いて內外は恐怖し，人は自ら安ぜず，皆な苟くも免れんことを求め，固志有るもの莫し，足を重ね息を累（おさ）め（足を重ねて立ち、気を屏めて息を潜める），以て終わるに逮（およ）ぶ。
●戊子（24+60−58+1=２７日），周は越王の**盛**を以て太保と為し，**尉遲迥**を大前疑と為し，代王の**達**を大右弼と為す。
●［鄴城の石經を洛陽に移動］辛卯（27+60−58+1=３０日），鄴城の《石經》（漢の靈帝の時に蔡邕は石經を大学講堂の前に立つ。魏の正始中に又古篆隷三字の石經を立つ。齊の高澄は之をに遷す）を洛陽に徙す。河陽、幽、相、豫、亳、

青、徐七總管に詔して，並びに東京の六府の處分を受けしむ。

●**三月**，庚申（56-28+1=２９日），**天元**は長安に還り，大いに軍伍を陳ね，親ら甲冑を擐き，青門（漢の長安城の東出南来の第三門、青色）より入り，**靜帝**は法駕（大駕に次ぐ）を備えて以て従う。

●［天元帝后は十餘歳年上］**夏，四月**，壬戌（58-57+1=２日、元嘉暦では朔は辛卯）朔，妃の**朱氏**を立てて**天元帝后**と為す。**后**は，吳人にして，本は寒微に出，靜帝を生み，**天元**より長ずること十餘歳，疏賤にして寵無く，**靜帝**の故を以て，特に之を尊ぶ。

●己巳（乙巳×、5+60-57+1=９日），**周主**は太廟に祠る。壬午（18+60-57+1=２２日），大いに正武殿に醮す。

●［趙陳越代滕の五国設置］**五月**，辛亥（47-27+1=２１日），襄國郡を以て趙國と為し，濟南郡を陳國と為し，武當（五代志に淅陽郡武當県に旧、武當郡を置く、湖北省襄陽道均県の北、現・十堰市丹江口市）、安富（安福に作るべし。五代志に安福県に安福郡を置く、湖北省襄陽道均県の西、現・十堰市丹江口市周辺）二郡を越國と為し，上黨郡を代國と為し，新野郡（河南省汝陽道新野県、現・南陽市新野県）を滕國と為し，邑は各々萬戸。趙王の**招**、陳王の**純**、越王の**盛**、代王の**達**、滕王の**逌**をして並びに國に之か令む。

●［隨公の楊堅は天元の寿命短きを予測］隨公の**楊堅**は私に大將軍の汝南公の**慶**に謂って曰く、

「天元は實に德を積む無し。其の相貌を視るに，壽（寿命）も亦た長からず。又た，諸籓は微弱にして，各々國に就か令め，曾て根を深くし本を固める之計無し。**(10-138p)** 羽翮は既に剪り，何の能く遠くに及ばん哉！」

慶は，**神擧**之弟也。

●突厥突厥は周の并州を寇す。**六月**，周は山東の諸民を發して長城（齊の築城、166 巻梁の敬帝太平元年にあり）を修める。

●**秋，七月**，庚寅（26-26+1=１日），周は**楊堅**を以て大前疑と為し，柱國司馬の**消難**を大後承と為す。

■辛卯（27-26+1=２日），初めて大貨六銖錢を用いる。

●丙申（32-27+1=６日），周は司馬の**消難**の女を納れて**正陽宮**（靜帝）の**皇后**と為す。

●［天元の四后］己酉（45-27+1=１９日），周は**天元帝太后**の**李氏**を尊びて**天皇太后**と為す，壬子（48-27+1=２２日），**天元皇后**の**朱氏**を改めて**天皇后**と為し，妃の**元氏**を立てて**天右皇后**と為し，**陳氏**を**天左皇后**と為し，凡そ四后と雲う。**元氏**は，開府儀同大將軍の**晟**之女。**陳氏**は，大將軍の**山提**（爾朱兆の蒼頭なり、156 巻梁の武帝中大通五年にあり）之女也。（皆后の父）

●**八月**，庚申（56-56+1=１日），**天元**は同州に如く。

■［陳の玄武湖の閲兵式］丁卯（3+60-56+1=８日），**上**は武を大壯觀に閲し。都督の**任忠**に命じて歩騎十萬を帥いて玄武湖に陳べ，都督の**陳景**をして樓艦五百を帥いて瓜歩江に出で，振旅し而して還らしむ。

●壬申（8+60-56+1=１３日），周の**天元**は長安に還る。甲戌（10+60-56+1=１５日），**陳山提**、**元晟**を以て並せて上柱國と為す。

■［方泰を罰し、継いで復帰さす］戊寅（14+60-56+1=１９日），**上**は宮に還る。豫章內史の南康王の**方泰**は，郡に在りて秩滿ち，火を縦ちて邑居を延燒し，因りて暴掠を行い，富人を驅錄し，財賄を徵求す。**上**は武を閲し，**方泰**は當に従うべきに，啟して母の疾と稱して行かず，而るに微服して民間に往き人妻に淫し，州（揚州）の錄する所と為る。又た人仗（兵仗）を帥いて抗拒し，禁司（姦通罪の取締官）を傷つけ，有司の奏する所と為る。**上**は大いに怒り，**方泰**を獄に下し，免官し，爵土を削り，尋いで而して舊に復す。

●■［北周は淮南を寇す］壬午（18+60-56+1=２３日），周は上柱國の畢王の**賢**を以て太師と為し，郇公の**韓業**を大左輔と為す。**九月**，乙卯（51-25+1=２７日），酆王の**貞**を以て大塚宰と為す。鄖公の**韋孝寛**を以て行軍元帥と為し，行軍總管の杞公の**亮**、郯公の**梁士彦**を帥いて淮南を寇さしむ。仍って御正の**杜杲**、禮部の**薛舒**を遣わして來聘せしむ。

●［仏像復活、雑戯を陳ね長安士民観覧］**冬，十月**，壬戌（58-55+1=４日），周の**天元**は道會苑に幸し，大いに醮し，**高祖**を以て配醮す。初めて佛像及天尊像を復し(前巻六年に廃仏像)，**天元**は二像と倶に南面して坐し，大いに雜戲を陳ね，長安の士民をして縱觀せ令む。

■甲戌（10+60-55+1=１６日），尚書僕射の**陸繕**を以て尚書左僕射と為す。

■**十一月**，辛卯（27-24+1=４日），大赦す。

●■［周軍は続々南下］周の**韋孝寛**は杞公の**亮**を分遣して安陸より黃城を攻めしめ，**梁士彦**をして廣陵（新息にあり、汝陽道息県、現・信陽市息県）を攻めしむ。甲午（30-24+1=７日），**士彦**は肥口（淝水の淮に入る口）に至る。

●乙未（31-24+1=８日），周の**天元**は溫湯（[馬麗]山の温泉）に如く。**(10-139p)**

●■［周は壽陽を包囲］戊戌（34-24+1=１１日），周軍は進みて壽陽を圍む。

●周の**天元**は同州に如く。

■［陳は迎撃体制を敷く］詔して開府儀同三司、南兗州刺史の**淳於量**を上流水軍都督と為し，中領軍の**樊毅**をして北討諸軍事を都督し，左衛將軍の**任忠**をして北討前軍事を都督し，前豐州（五代志に、陳は建安郡に豐州を置く、福建省建安道建甌県、現・南平市建甌市）刺史の**皋文奏**をして步騎三千を帥いて陽平郡（五代志に、江都郡安宜県に梁は陽平郡を置く、江蘇省淮揚道寶應県の済南、現・揚州市宝応県）に趣かしむ。

●壬寅（38-24+1=１５日），周の**天元**は長安に還る。

■●［周軍は壽陽等を陥とす］癸卯（39-24+1=１６日），**任忠**は步騎七千を帥いて秦郡に趣く。丙午（42-24+1=１９日），仁威將軍の**魯廣達**は衆を帥いて淮に入る。是の日，**樊毅**は水軍二萬を將いて東關より焦湖（九城志に、巢湖は亦焦湖と謂うと。合肥に向かう）に入り，武毅將軍の**蕭摩訶**は步騎を帥いて歷陽に趣く。戊申（44-24+1=２１日），**韋孝寛**は壽陽を拔き，杞公の**亮**は黃城を拔き，**梁士彦**は廣陵を拔く。辛亥（47-24+1=２４日），又た霍州（五代志に、盧江郡霍山県に梁は霍州を置く。安徽省安慶道霍山県、現・六安市霍山県）を取る。癸丑（49-24+1=２６日），揚州刺史の始興王の**叔陵**を以て大都督と為し，水步の衆軍を總べしむ。

●丁巳（53-24+1=３０日），周は永通萬國錢を鑄，一は千に當たり，五行大布と並び行う。

●［天元は正武殿に大集合］**十二月**，戊午（54-54+1=１日），周の**天元**は災異の屢々見るを以て，仗衛を捨てて，天興宮に如く。百官は上表し，寢膳を復すを勸める。甲子（60-54+1=７日），宮に還り，正武殿に御し，百官及び宮人、外命婦（五官以上の官の妻）を集め，大いに伎樂を列ね，初めて乞寒（本は西国外藩の樂）胡戲を作す。

●■［江北は盡く周に沒す］乙丑（1+60-54+1=８日），南、北兗（五代志に治所載せず）、晉（同安郡に梁は豫州を置き、後に晉州と改め、北齊は江州と改め、陳はまた晉州とす。安徽省安慶道潛山県、現・安慶市潛山市）の三州及び盱眙、山陽、陽平、馬頭、秦、歷陽、沛（江蘇省徐海道沛県、現・徐州市沛県、劉邦の出身地）、北譙（安徽省淮泗道全椒県、現・滁州市全椒県）、南梁（未詳）等九郡の民は、並びて自ら拔きて江南に還る。周は又た譙（渦陽に治す、安徽省淮泗道蒙城県、現・亳州市蒙城県）、北徐州（安徽省淮泗道鳳陽県、現・滁州市鳳陽県、古の鐘離）を取る。是より江北之地は盡く周に沒す。

●［天元は駅馬で暴走］周の**天元**は洛陽に如き，親ら驛馬をし，日に三百里を行き，四**皇后**及び文武侍衛

數百人は並せて駘（駅馬）に乗りて以て従う。仍ほ**四后**をして駕を方べて齊しく驅ら令め，或は先後有れば，輒ち譴責を加え，人馬は頓僕し，道に相い及ぶ。

■［迎撃体制の再整備］癸酉（9+60−54+1=１６日），平北將軍の**沈恪**、電威將軍の**裴子烈**を遣わして南徐州に鎮せしめ，開遠將軍の**徐道奴**をして柵口（柵江の口）に鎮せしめ，前信州刺史の**楊寶安**を白下に鎮せしむ。戊寅（14+60−54+1=２１日），中領軍の**樊毅**を以て荊（五代志に、陳は南郡公安県に荊州を置く）、郢（江夏郡に置く）、巴（巴陵郡に置く）、武（武陵郡に置く）四州水陸諸軍事を都督せしむ。

●己卯（15+60−54+1=２２日），周の**天元**は長安に還る。**(10−140p)**

■●［周法尚は周に降り、樊猛を騙す］貞毅將軍の汝南の**周法尚**は，長沙王の**叔堅**と相い能からず。**叔堅**は之を**上**に譖し，其の反せんと欲すと雲う。**上**は其の兄の定州（五代志に、永安郡麻城県に陳は定州を置く、湖北省江漢道麻城県、現・黄岡市麻城市、時に既に周に没す）刺史の**法僧**を執り，兵を發して將に**法尚**を擊たんとす。**法尚**は周に奔り，周の**天元**は以て開府儀同大將軍、順州（五代志に、漢東郡順義県に西魏は順州を置く。湖北省江漢道随県北 80 里厲城県、現・随州市曽都区）刺史と為す。**上**は將軍の**樊猛**を遣わして江を濟りて之を擊たしむ。**法尚**は部曲の**督韓朗**を遣わして詐りて**猛**に降らしめて，曰く、

「**法尚**の部兵は北に降るを願わず，人は皆な竊に議し，叛きて還らんと欲す。若し軍來たるを得れば，自ら當に戈を倒さん。」

猛は以て然りと為し，兵を引いて急に之に趨く。**法尚**は陽りて畏懼を為し，自ら江曲（揚子江の曲り）を保ち，戰い而して偽り走り，伏兵は之を邀える。**猛**は僅に身を以て免れるも，沒する者は幾んど八千人なり。

令和 5 年 8 月 17 日　　10407 文字
令和 5 年 8 月 22 日　　23884 文字